



コミュニティ しずおか

2019
7月
No.155



地元からもらった川根愛を子どもたちにリレーする

カワネ ラブズ ファクトリー
KAWANE LOVE'S FACTORY (島田市)

▼島田市川根地区で活動するKAWANE LOVE'S FACTORYは、平成26年に発足。会員数38人(平均年齢37歳)、主に子育て世代の男性が中心となり「かわねこどもまつり」の開催や「大井川横断鯉のぼり」の活動をしている。

▼きっかけは、会員の伊藤さんが「自分たちの親の世代が始めた大井川を泳ぐ鯉のぼりを再び復活させたい。子どもの頃見ていた同じ風景を、今の子どもにも見せたい」と同世代に声を掛けた。「子どものためなら」と賛同を得やすかったことや何かと顔を合わせる機会が多いという地域性もあり、先輩後輩、父親同士の繋がりで10人が集まりスタートした。

▼活動も6年目に入った。こどもまつりには毎年300人程の来場がある。また、鯉のぼりは、昨年から川根小学校の子どもたちがペイントしたオリジナル鯉のぼりも加わっている。今後、楽しいだけで終わるのではなく、学びにもなるようなこどもまつりの企画や、鯉のぼりを地域の伝統行事として継続していける仕組みを考え中である。

▼代表の兒玉さんは「年齢の異なる繋がりが新鮮で楽しく、地域の協力と家族の協力で感謝している。子どもたちに「お父さんが上げてくれた」と言って喜ぶ姿は励みになる」と語ってくれた。

◇代表：兒玉雅人さん(問合せ・090-3520-4825)

【情報提供・村松遼太郎】

Topics トピックス

クローズアップ P2
避難行動要支援者の支援活動(三島市)

地域訪問記 P6
かつてのにぎわいを!!町並みと蔵展(周智郡森町)



ニギハク
のこぎき・りえ



創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



避難行動要支援者の支援活動10年 ～「安全・安心」は自分たちで守る～



芙蓉台自治会支援者会

65歳以上は44%、進む高齢化

三島市の北部にある新興住宅地「芙蓉台」。昭和50年代に開発されたこの地域は、人口2280人、895世帯で、現在65歳以上が44%という三島市の中でも有数の高齢化が進んでいる地域である。平成22年、当時の自治会役員が立ち上げたのが、災害避難時に支援が必要な人を支援する組織「芙蓉台自治会支援者会」。震度5強以上の地震発生で要支援者の避難を迅速に対応する組織である。

きっかけは、10数年前、認知症者の行方不明が発生し帰らぬ人となってしまった。都心への通勤圏である

ため県外出身者が多い事や新興住宅街であるため、お互いのつながりが決して強いとは言えなかったことから「このままでは地域が危ない」と発足した。

地域の中央に「芙蓉台公民館」（市町によっては自治会館、集会場と呼ばれる）がある。発足当時の会長である山本さん、同じく事務局長の富澤さん、現自治会長の勝木さん、民生委員の芹澤さんの4人のメンバーの方々から話を伺った。

30人の要支援者を63人が個別に支援

会が支援する要支援者は30人。住んでる場所から

5 ブロックに分け、1 ブロック 5、6 人いる要支援者を 10～12 人で支援。震度 5 以上の地震や警戒宣言が発令されたときに、支援者が担当要支援者宅に赴き必要ならば公民館に避難させる。

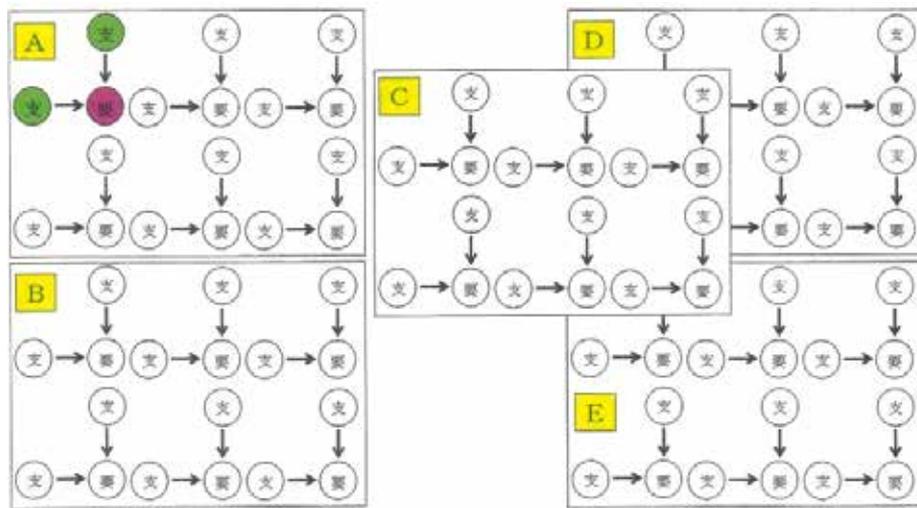
会の大きな特徴は、①継続的な支援が行われるように任期は決めず、自治会役員退任者、民生委員などを中心に計 10 人で構成している毎月の事務局会議で要支援者の近況等を把握していること（3 人の民生委員の方々が普段から地域の方々の見守りをしていることが大きいんだなあ）②支援者と要支援者との顔合わせを行い相互確認している。③支援者はボランティアであり、13 歳の中学生から 80 才の年配の方まで 63 人で、30 人の要支援者を個別に支援していること（家族みんなが支援者ってすごい!）④自治会の防災訓練の際に会では安否確認訓練を実施。その際、坂道や階段が多いので、フレキシブル担架というやわらかい素材でできている担架やおんぶ紐で搬送訓練を行っている。（傾斜地ならではの用具だ!）

幸い、発足以降いまだその規模の地震に遭遇していないが、「忘れた頃にやってくる」たとえ通り日頃の準備は欠かせない。まさに備えあれば憂いなし。

なぜこの仕組みが成立できたのか 関わりは変えられる

まずビックリしたのは、勝木自治会長の名刺に 9 時から 15 時まで公民館に常勤していることが記されていた。会のメンバーでもある自治会長は、常に住民の方々と関わっている。「普段から集える場があり、常駐の役員がいるという組み合わせが、三島市でも唯一というこの組織の鍵ではないか」とのこと。

活動発足当時は支援者会の内容が十分理解されず支援者を集めるのに苦労もあった。山本会長にどうやって理解を得たのか聞いてみると、小学生の登下校の見守りを続けていく中で、子どもから親と顔見知りが増えていったことや当時自治会長として子ども会の活動を大事にしたことから、支援者に応募してくれる人も増えたという。



5ブロックに分けて要支援者に支援者が対応する方法

できないと決めるのではなく、どうやったら できるかを考える

それは、昔営業マンだったころの口ぐせだと、山本会長、勝木自治会長が語る。「まずは4割の人々の同意が目標」との言葉も営業で培ったものの賜物だと感じた。

10 年目にして順調に進んでいる組織とはいえ実働はまだなく、会の後継者課題もある。とはいえ、まだ 70 代の方々からはこれからもコミュニティづくりのよき手本として続けていけるのではないかと余裕を感じることができた。



上から時計回りに
芹澤さん、勝木さん、
山本さん、富澤さん



◇代表:山本宗男さん
(問合せ・055-988-7845)

【情報提供・富澤隆雄】



レポート・高村 光 編集委員



まちからむらから



伊豆市

地域と共に発展を目指す月ヶ瀬梅の里

農事組合法人
伊豆月ヶ瀬梅組合



2月～3月に開催する梅まつり

▼昭和44年、地域の大半が組合員となり発足し、県の農業改善事業として梅林造成事業を開始。平成13年、梅林を活用し、自分たちで地域の賑わいを取り戻そうと「伊豆一番の梅公園づくり」の実現に取り組み始め、組合自ら企画・運営する梅まつりを開催するまでになる。

▼現在、梅の加工生産、観光梅狩り、お月見コンサートやフリーマーケットを行い、地域に人を呼び込むことはもちろん、男の調理実習体験、天城小2年生の梅狩り体験、天城中学校卒業生の記念植樹など地域と共に活動、発展もしている。

▼50年が経ち、会員の高齢化や減少で実質活動部隊は会員数の半分25人程であるが、地域の方々の草刈り支援や短大生との商品協働開発などの活動支援に感謝している。組合員一同は長期的な展望を持っており、地域の賑わいは自分たちで作るとの強い思いで、実現に向け挑戦を続けている団体である。

<https://www.tsukigase.net/index.html>

◇代表：内田隆幸さん(問合せ・0558-85-0480(組合事務局))

【情報提供・伊藤 博】

吉田町

茶摘みでGO! 新茶手摘み体験教室

吉田町4地区合同
地域教育推進協議会



摘んだ新芽はお家で天ぷらに

▼吉田町の川尻、住吉、片岡、北区の4地区合同のボランティアグループは「地域の子どもは地域で育てる」をモットーに掲げ、合同で教育委員会と連携をとり会員数106人が活動をしている。

▼去る5月5日、茶摘みをしながら地域の子どもと大人の交流を図ろうと新茶手摘み体験教室を開催。当日は、参加者92人の親子が片岡会館に集合し、44人のスタッフで対応。茶畑を提供してくれた農業経営振興会から手摘みのやり方を教えてもらい、ボランティアも一緒になって会話を交わしながら新芽を摘んだ。その後、急須でお茶を入れる実践やスタッフが用意した摘みたての茶葉天ぷらに舌鼓。子どもたちも関心を持ち、天ぷらの作り方やお茶の種類など質問が飛び出した。

▼天候の心配や前日に茶葉入りクッキーを焼くなど準備が大変だが、「子どもたちとの交流は楽しく、子どもや保護者が地元の農産物に対する関心と理解を深めるきっかけになれば」と考えている。

◇代表：大石基夫さん、近藤直久さん、和田住男さん、田中容子さん

(問合せ・生涯学習課 0548-33-2152)

【情報提供・吉永優子】

島田市

出会いのコミュニケーション広場始めました

遊雅クラブ



「大人のカフェ」会員が講師となり立礼披露

▼代表の畠中さんは、「退職後は島田市に貢献したい。ボランティア活動をした」と思っていた。平成29年、隣家購入の機会があり、この家を使って何か活動をしたいと語学講座で知り合った仲間と相談すると、絞るのが苦勞するほどアイデアが溢れた。平成30年10月、7人の仲間とともに地域行事の文化・歴史を学習し、地域ふれあいの居場所を目的に活動しようと、出会いのコミュニケーション広場「遊雅クラブ」が発足した。

▼活動は、島田の祭りについて学ぶ会を「学習シリーズ」と銘打ち、第1回目は「鬼払い」講座を開催。現在第3回目を企画中。「大人のカフェ」では、仲間が持つ人脈やスキルを活かした企画や参加者から内容を公募することも計画している。

また、ご近所の方の要望に応え、8月に夏休み企画として「子どものマナー教室」を9日間開催し茶道を通して日本のマナーを学んでもらう。来年からは会の継続を考え、会費を徴収し自主財源を確保する予定である。

◇代表：畠中慶子(問合せ・0547-33-5225)

【情報提供・五十嵐葉子】



御前崎市

メニューは1つで負担減!子ども食堂

ボランティアサークル
さくら子ども食堂



一食100円 子どもはお手伝いで無料

▼平成28年2月に始まった「さくら子ども食堂」は、ソーシャルワーカー同士の「佐倉地区に子どもの居場所があるといいね」という立ち話から「どんな人にも居場所があって良かったと思える活動」を目的に始まった。会場は、会員の職場でもある社会福祉法人草笛の会はまおか作業所をお借りし、毎月第3土曜日に開店している。

▼会の特徴は、メニューが毎回カレーと決まっている事。食材を寄付に頼っているからでもあるが、カレーは誰もが作れ、メニューで悩む必要がない。また、空いている時間だけ手伝いにくるなど、厳密なルールを置かないことで、会員の負担軽減を図っていることである。

▼子ども食堂となっているが、誰でも利用可能。毎回40人程の参加がある。「カレーは来た人たちを繋げるコミュニケーションの一つ。多様性を認めながら、利用者同士をつなげていきたい」と会員の瀧野さんは言う。

※お手伝いしてくれる方募集中です!

◇代表:鈴木博喜さん (問合せ・0537-73-4665(草笛の会法人本部))

【情報提供・二俣直子】

磐田市

遊び心で活動しよう!

大原新町花の会



楽しく遊び、楽しく活動

▼平成元年に発足した大原新町花の会は、平均年齢70歳、13人(男性3人、女性10人)で活動をしている団体である。会員の高齢化などの理由で入れ替わりながら31年目を迎える。

▼主な活動は、月2回の公園の周囲と花壇に季節の花植えと月2回のグラウンドゴルフ、更に手芸活動も少々。花壇整備は、当番制で朝晩の水やりと雑草取りを行っている。水やりの時に地域の方と世間話をしたり、下校する子どもたちと花を見て「きれいな花ね」と話したり、学校での出来事を聞いたりするなど、地域コミュニケーションに繋がっている。

▼代表の朝比奈さんに30年間の秘訣を伺うと「遊び心!花に詳しいわけでもなく、夏の水やりは大変。それでも続けているのは遊び心を持って楽しく活動しているから」と言う。会員の出席率は高く、辞める人もいない。新規入会者もポツポツあるのは、会員が楽しみながら活動をしている証である。

◇代表:朝比奈幸子さん(問合せ0538-58-0171)

【情報提供・安部詠司】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます (アドレス <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣 旨・目 的	月 日
1	南伊豆町	文化にふれる	音読倶楽部りん	声に出すと違った視点で本と出会う面白さを共感できる場づくり。	年 4回
2	松崎町	重文まつり出店!ヘルシーメンチカツ	松崎町健康づくり食生活推進協議会	健康に暮らすためのメニューの研究や食生活に関する情報の啓蒙活動。	平成31年4月28日(日)
3	裾野市	がん患者会 with a cancer	with a cancer	不安な気持ち、話せる場所を地域の中につくる。	毎月第3木曜日(千福が丘アートサロン) 毎月第3木曜日(まめきゅう)
4	小山町	地域の伝統「ゆいねんさん」をみんなですべて守ります	唯念寺世話人	唯念上人の遺徳を偲び唯念寺を守り伝統行事として例祭を続ける。	年 5回
5	藤枝市	描いてみよう! 藤枝の春親子写生大会	藤枝市子ども会世話人連絡会	絵を通じて親子のつながりを深め、子どもの健全育成を目的。	平成31年4月29日(祝・月)
6	島田市	新茶高値取引祈願「坂本藤吉翁 顕彰祭」	大井川農協島田北茶業部伊久美支部	先人の苦難の末の功績を末代まで忘れずに語り伝え守り続ける。	平成31年4月16日(火)
7	島田市	伊久美白井集落 今も続く風習 庚申さん	白井町内会	伝統文化継承を後世に伝え小集落住民同士の絆を深める。	月 約2回
8	御前崎市	手作り大好き!ハッピーライフ	ハッピーライフ	人に認めてもらい喜んでもらうことで活き活きと活動する場	週 1回 教室 その他:フリマ参加 産業まつり参加
9	浜松市	明るく住みよい社会を築くため陰の力となって身近な奉仕に従事する	浜松市春野赤十字奉仕団	有事に備え、救護や炊き出しの訓練を常時実施している。	通年

地域訪問記

長く続いている団体を紹介します。

地元の祭典を石蔵で紹介



着物姿も
チラホラ

森町の歴史と
偉人について紹介



かつてのにぎわいを!! 町並みと蔵展 ～森町を掘り起し伝える～ 遠州木三の里連 (周智郡森町)

遠州森町は静岡県西部の山間地にあり、その昔「秋葉山」へ通ずる秋葉街道の宿場町として賑わい、お茶や古着の売買でも栄えていた。今も街道脇に残る格子戸の町屋や路地裏に点在する蔵はその時代を思い出させる。

平成17年、そんな歴史と文化があり、古い町並みが残る森町を活かして何か出来ないかと集まった有志で『遠州木三の里連』を結成。年2回春と秋に開催する「町並みと蔵展」を始めた。代表の榎原さんに活動のお話を伺った。

力強い助っ人

町並みや蔵を活かして始めるには、まず道沿いの商店や空き店舗持ち主の協力が第一。全員の賛成が必要と説明し協力をお願いするも良い返事はもらえなかった。全員に協力してもらえるにはどうしたら良いのか。何度も会議は繰り返された。そこで当時、森町の歴史と文化を調査している静岡文化芸術大学の教授に相談してみると一緒に森町の良さを知ってもらおうと大賛成。大学の協力を伝えると大学がやるというのなら協力しなければ『町並みと蔵展』への一歩が進んだ。計画を開始して半年以上かかり第1回目を開催する事ができた。

町を掘り起し、町を紐とく

「イベント開催が目的ではなく、森町の歴史、文化、偉人、特産物を町内外の人に知ってもらうこと、町を元気にすることが目的です」と代表の榎原さんは力強く言う。毎回、森町の歴史にちなんだイベントのテーマを設定し講演会を開催。歴史や文化について詳しい会員が、時には講師となることもある。講演会は、町民の参加が多く好評を得ている。

訪れた人には、森町にある隠れた財産の一つひとつ紐といてその価値に気づき、町民には誇りを持ってもらう。今では常連さんを含め毎回楽しみにしている人も多く聞き、会の目的は達せられていると感じた。

今年の秋で29回目を迎え、テーマが尽きないかと心配したが、「まだまだたくさんあります」と榎原さんは言う。ただ、マンネリを感じているのは事実で、最近では若い世代に声を掛け、企画実行してもらおうなどの工夫をしている。

心のおもてなし

『町並みと蔵展』のもう一つの楽しみ。それは150軒も並ぶ出店。空き店舗を利用したり商店の前を借りたり2キロほど道沿いに続く。

イベント当日に自宅と蔵を開放しているお茶屋さんの堀内五月さんにお話を聞くと「昔は賑やかだった通りが静かになってしまい寂しかったが、期間中は人が戻り、皆さん喜んで家を見てくれるのがうれしい」と言う。『町並みと蔵展』は訪れる人に楽しんで学んでもらうばかりではなく、迎える人にも楽しみと元気を与えているように思う。次回は11月23日(土)24日(日)に開催される。お話を伺い町並みや蔵展に行きたくなった。町並みを楽しむだけではなく、迎える側の活気ある笑顔に会いに行きたいと思う。

右から榎原さん、提供者の山田さん

◇代表：榎原淑友さん(問合せ・090-1472-6189)

【情報提供・山田勝恵】

レポート：市川頼子 編集委員

地域で共に活動し学んでいます！

私たち、

静岡県立大学環境サークルCO-CO

と申します！

静岡市清水区大内地区に入って活動している大学生サークルCO-COさんに、大内での交流を通じて感じたことなど、3回に分けて紹介していただきます。



CO-COは2006年に発足し、今年で成立から14年目となります。現在は3年生14人、2年生7人、1年生6人の計27人で構成され、様々な学年、学部の仲間たちと楽しく活動をしています。

CO-COという名前はCO-existence(共生)とCommunicator(伝達者)の2つの単語に由来しており、自然環境との“共生”の大切さを人々に“伝えたい”という思いからスタートしました。また団体の軸として「私たちは人と自然が共生している社会を目指し、人々が自然と向き合う場を提供することにより、自発的に行動するきっかけづくりをします。」というMissionを掲げ、自分たち自身が自然との共生を体感するとともに、それらを社会に向けて発信するための活動をしています。

数ある環境問題の中で私たちは放置竹林問題に着目し、取り組んでいます。その活動の場として静岡市清水区にある大内という地域に入らせていただいています。大内地区の山はおよそ半世紀前にはミカンの木と茶畑が広がっていましたが、近年はそれらに代って孟宗竹の竹林が拡大したことで生態系に悪影響を与えたり、土砂崩れが発生しやすくなったりする放置竹林問題が起こっています。そこで実際に竹林に入って自分たちの手で整備をすることで、この問題に取り組んでいるのです。このような活動は自分たちの力のみでできるものではなく、もともと大内地区で活動をされている団体の竹林再生プロジェクト大内の皆さんのご協力の下で成り立っています。

私たちは成立当初は特定のフィールドを持っておらず、活動の場を探して2010年頃から3つの地域との交流を始めました。その中で外部の学生団体であるCO-COを地域に入れることを受け入れてくださったのが竹林再生プロジェクト大内の皆さんでした。私たちにとって竹林再生プロジェクト大内の皆さんは恩人であり、これからも感謝の気持ちを忘れずに活動を続けていきます。

10月号へ続く

コミン家

のりぐきりえ



コミュニティ活動集団16集団を指定

令和元年度の「コミュニティ活動集団」は、次の16集団を指定しました。地域で新しいコミュニティの風を巻き起こすような活動を期待します。

- 大場川遊歩道クリーンチーム（裾野市） 人が集まる気持ちの良い空間を創ろう
- 原区体育・コミュニティ振興会(裾野市) 人と人とのつながりが地域を元気にする
- 紙っと!プロジェクト（富士市） 子どもたちが紙を通して楽しみ、人を繋げよう広げよう
- 富士駅南地区まちづくり協議会防災部会（富士市） 研修等を通して地区民の防災意識向上を図る
- 富士宮市青木平区（富士宮市） 地域のつながりを深め移住定住促進
- 竹林再生プロジェクト大内（静岡市清水区） 放置竹林を紅葉や花を楽しめる里山にする
- 長田彩りの会（静岡市駿河区） キャンドルフェスタで地域の人の輪、心の和を繋ぐ
- 用宗汐風クラブ（静岡市駿河区） 「住みよい町づくり」の中核となる活動
- 焼津福祉文化共創研究会（焼津市） 地域づくりの居場所を拓く
- 西益津お出かけ支援隊（藤枝市） 今までの知識と経験を活かし地域に貢献する
- 葉梨ささえ愛隊（藤枝市） 高齢者の外出をサポートして、自立した生活を推進
- きくがわ未来会議（菊川市） 菊川の魅力を発信!!
- 緑十字機不時着を語り継ぐ会（磐田市） 戦後平和の原点となった鮫島住民の歴史を後世に語り継ぐ
- ひくま花の会（浜松市中区） 公共施設や地域を花いっぱいコミュニティに
- 可美校区子ども会世話人連合会（浜松市南区） 楽しい子ども会にしよう
- 湖西市内青空学級運営協議会（湖西市） 親子で笑顔

編集委員を紹介します

本年度の本紙編集委員の皆様を紹介します。(敬称略)

- ・大澤由紀子（楽しいくらしクリエイター・本会推進専門委員）
- ・曾田尚寿（県広報協会常任理事兼事務局長）
- ・高村 光（コミカレ修了者・沼津市）
- ・市川頼子（コミカレ修了者・吉田町）
- ・山田恭之（県地域振興課主査）
- ・瀧 昌光（コミ推協常務理事）



近くに宝くじ売場がなくてもネットで購入できるよ!

宝くじ公式サイト

宝くじ公式サイト <https://www.takarakuji-official.jp/>

当さんのチャンス広がる

5

千円

1等前後賞合わせて500万円
1等300万円
前後賞各100万円

7

億円

1等前後賞合わせて7億円
1等5億円
前後賞各1億円

この宝くじの収益金は、市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

7月2日(火) 同時発売 各1枚 300円

発売期間 7月2日(火)~8月2日(金) 抽せん日 8月14日(水)

一般財団法人 全国市町村振興協会
2019年市町村振興宝くじ